

HSK NPO 法人「文福」ニュース❀❀❀❀



NO.309



冒頭の一言

3月は年度の終わりの月です。学生さんにとっては卒業の季節、会社員にとっては会計締めの日でもあり、さまざまな別れのある時期です。しかし同時に、新しい出会いを楽しみにしたい季節でもあります。

寒さに包まれていた日々の中で、ふとした瞬間に春の気配を感じるようになります。つくしも、もうすぐ顔を出すことでしょう。何だか心が弾む季節です。そして、車椅子ユーザーにとっても出歩きやすい、本格的な春が間もなく訪れます。今号も盛りだくさんの内容となっています。どうぞごゆるりとお読みください。

kaokao

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	富山短期大学健康福祉学科へ行ってきて … 2-3
こんにちは(アルバイト紹介) … 4	ザ☆カイジヨを振り返って … 5-7
Penko … 8-9	ありがとうコーナー … 10

富山短期大学健康福祉学科へ行ってきて

中村かおる

今年で 3 回目になりますが、1 月 13 日、富山短期大学健康福祉学科の学生さんの「障害者ケア論」というカリキュラムの一環として、福祉学科の中島先生とトーク形式でお話をさせていただきました。

まず自己紹介と、私自身の生活について、そして文福の活動紹介をしました。文福は、障害者の自立生活を支えるヘルパー派遣事業を核に、障害者と健常者が共に関わりながら障害者の社会参加を進め、障害者同士の仲間づくりを行っています。さらに、障害者の声や要望を行政や社会に伝え、その実現を目指しています。

そのほか、障害者と健常者の交流を目的としたレクリエーション企画、障害者の相談や権利に関する活動、障害者の差別や、色んな差別について学ぶ学習会などの活動を定期的に行っています。

続いて、私自身の障害のことや、これまで生きてきた道のり、そして思い出深い出来事についてお話ししました。

思い出深い出来事としてお話ししたのは、18 年前、小学 4 年生の子どもたちの前で話をした時のことです。質問コーナーで一人の子どもから「障害者に生まれてきて良かったと思うことは何ですか？」と聞かれました。

私は少し考えた後、次のように答えました。

「私は障害が重く、自分では身の回りのことがほとんどできません。人に関わってもらわなければ生きていくことができません。だからこそ、これまで本当に多くの方に関わっていただき、生きてきました。

この多くの方々との出会いは、私が重度の障害者だったからこそ得られたものだと思っています。その多くの人との出会いの中で、私は沢山のことを学びました。

その一つ一つの出会いは、私の心の中の宝石です。これからも、この宝石を

大切にしながら生きていきたいと思っています。これが、障害者として生まれてきて良かったと思うことです。」

これは、私の半生の中でも特に印象に残っている出来事です。

その後、私が足でスマホや iPad、パソコンを操作している様子の写真や、足で描いた絵をモニターに映し学生の皆さんに見ていただきました。

学生さんからは、いくつもの質問をいただきました。その中で最も印象に残ったのが、「もし、障害者でなかったら何になりたかったですか？」という質問でした。それに対して私は、「看護師さんか、学校の先生になりたかったです」と答えただけで、「私は生まれてすぐに障害を持ちました。そのため『もし障害者でなかったら・・・。』という質問は、今の障害者である私自身を否定されているように感じてしまい、あまり好きな質問ではありません。」と伝えました。

最後に、学生の皆さんへメッセージとして、言わせていただいたのは、「私は多くの方に介助してもらいながら生きています。感謝の気持ちを忘れたことはありません。

皆さんがこの学校を卒業し、介護施設やヘルパー事業所で働かれるようになった時、介護者のペースで支援するのではなく、利用者一人ひとりに寄り添い、利用者の気持ちに耳を傾け、利用者の気持ちを尊重する支援をしてください。

それを実践することは簡単ではないと思いますが、利用者に寄り添う心を忘れずにいてほしいと思います。利用者としての私からのお願いです。

皆さんが良き支援者になれることを願っています。」

こう結び私の話を終えました。

このような貴重な機会を 3 回も与えてくださった富山短期大学健康福祉学科の中島先生に心より感謝いたします。

また、私のつたない話しを真剣に聴いてくださった学生の皆さん、本当にありがとうございました。

また一つ、私の心の中の宝石が増えました。感謝です。

こんにちは(アルバイト紹介)

あおちゃん

文福でお仕事をさせていただいて丁度 1 年になります。私は、介護の仕事に従事して 15 年余り。ずっとそして今も高齢者の方相手の介護の仕事をしてきました。

“介護だったら高齢者も重度障害の方も一緒だ。。甘い考えでした(苦笑) 文福に入社当時は。「続けていけるのか。私は、利用者さんの手や足になっているのか?」と、悩んだこともありました。そんな私の支えになってくれたのは、文福で働くヘルパーさんのアドバイスや利用者さんの笑顔でした。

1 年を経て、今は介助に入る日が楽しみでなりません。私の心の拠り所です



私の一方通行ではあかん!!利用者さんにとっての『心の拠り所』になれるような oasis 的な介助をしていきたい!! そう思ってます。



ザ☆カイジヨを振り返って

森田 知恵

前号でザ☆カイジヨの終了のお知らせを掲載しました。

そこで、あらためて自分なりにザ☆カイジヨを振り返りたいと思います。

ザ☆カイジヨは 2007 年度から始まり、2025 年度の夏まで続きました。

この間 200 名以上の方々が受講され、資格を得られました。

文福に入られたスタッフ・アルバイト、個人や他の福祉事業所のスタッフ、高校生・学生さんなど、最年長は 80 代。また県外からの受講もあり、資格は得られないが、聴講される方々もおられたり、とある専門学校で研修を行ったこともありました。

障害者スタッフが中心となって講師になり、講義や実技を行いました。

そして外部の方々(福祉事業所・医師・作業療法士)にも講師をお願いして、専門的なお話を聞きました。

受講者が利用者役とヘルパー役になって、言語障害のある方とのコミュニケーションの実技を行った時期もあったことを思い出しました。

タイムスケジュールの中で、一番楽しみだったのは基礎課程の 2 日目に

行った外出実習だったかなと思います。スタッフや受講された方々がウキウキしていたように見えました。

普段、公共交通機関を利用されない受講者の方が多く、天候に関係なく、車いすを押しながら車いす目線での外出・食事やトイレ介助などの実習を体験して、毎年送られてくるレポートには「普段気づけなかったことが、体に障害のある方と行動することで、不都合なことや新たな気づきがあり、良い経験になった。今後もこの経験を活かしたい。」という感想が多く寄せられ、研修を行ったかいがあったなあとうれしく思いました。

毎回届くレポートを読むのも個人的には楽しんでいました。講師陣の方々にもその都度配布していました。

スタッフになる前から、外出や運営などに関わらせてもらい、ザ☆カイジョが近づいて、受講申込書が届くと「どんな人なんだろう」などと思いを巡らせ、新たな出会いにワクワクしていました。なるべく受講者の方に声をかけることを心がけていました。お昼休憩の時も一緒に食事をしたりしていました。

この場をお借りして、ザ☆カイジョに関わってくださった受講者の方々、スタッフ・講師の皆様、各事業所・団体の皆様にお礼を申し上げます。

なお前号とは違う文章をホームページに掲載していますので、そちらの

方もお読みいただくとありがたいです。

他に、「障」ちゃんニュースのバックナンバーや、季刊誌「まっち」の一部も随時更新しています。

ホームページアドレス: <https://bunpuku.org/>

または で検索できます。

ありがとう😊
ごぞいました😊



Penko のおひとりさま 珍道中!! (Part75)

心が行き詰ったときに、テレビ番組の「笑点」を毎週録画して何度も見ています。

日テレ系列で、毎週日曜日夕方 5 時半から 30 分間、BS 日テレで毎週火曜日夜の 8 時から 1 時間「笑点特大号」が放映されています。

日曜日の「笑点」は、前半が演芸コーナーで、後半が大喜利。

火曜日の「笑点特大号」は、次世代を担う若手落語家の大喜利や、落語のイベントなどと、数週間前の日曜日の大喜利の未公開場面をふまえたものがあります。

「笑点」は今年 60 周年を迎えるそうです。

最初は立川談志さんが司会で、小さな頃は三波伸介さんが司会の時にちらちらと見てて、年を重ねて一人暮らしを始めてからじっくり見られるようになり、その頃の司会は桂歌丸さんで大喜利がおもしろいと思うようになりました。

今年は午年ですが、歌丸さんの前の司会者が五代目三遊亭圓楽さん、星の王子様と呼ばれ、馬に似てると言われていました。

現在の司会は、春風亭昇太さん。司会を始めてもう 10 年になるのかな。

皆さん本業は落語家ですが、大喜利の方が好きです。大喜利に出演されている皆さんが 40 代からと少し若返りました。それぞれのキャラが確立していて、個人的には三遊亭小遊三さんが大好きです。色男・犯罪者・座薬と火薬を間違えるギャグなど、最近パリコレのネタとか。芸能人の名前とかも出てきます。ペ・ヨンジュン、福山雅治、アラン・ドロンなど、最新

は Snow Man の目黒蓮ですね。

最近皆さんの二十歳の頃の写真で大喜利をされたのですが、小遊三師匠の写真のスタイルがアラン・ドロンのまんまで、笑ってしまったのとカッコよかったのでツボにはまりました。

他のキャラは、高市首相や石破前首相のものまね、次の司会者狙うキャラ、やる気があるのかないのかわからないなど様々です。

本業の落語はもちろんですが、いつまでも元気で笑わせてもらいたい。そう思っています。

2月5日 記



ありがとうコーナー

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後もしよろしくお願ひします。

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



さて、早いもので、来週から 2 月になります。先週から、今季一番の最強寒波が来ています。大雪のピークは、過ぎたようですが、まだ、一カ月だけの雪が降り積もるか心配です。さて、節分でそれが終わると本格的な受験シーズンがやってきますね。3 月は、春に近づいてきますが、別れの季節でもあります。それで、この度、アパッチは、編集委員を降りることになりました。長い間このコーナーを読んでくださってありがとうございました。

(アパッチ) より。

いただきもの

三井 真知子さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぶく} 文福

〒930-0138 富山市呉羽町 7276 番地 3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <https://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 460-0390

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。